砥藤綱模稜案 下篇 上

E 24
327

曲亭馬琴著

大蘇芳年畫

青砥藤綱摸稜案

二冊讀切

發兌

柏江堂書房

B 23475

醫學士森林太郎圖書之記

再篇摸稜案序

治天下之道惟公而已。公則胡越一家。私則肝膽楚越。此古聖人所以視天下爲一家中國爲一人也。昔者召伯之聽訟也。甘棠以民頌德。桀紂之淫刑也。炮烙以忘其身。臻衰周戰國。則諸侯力政。深閉固拒。各曲爲防護。以爲得親疏之道。於是申韓用刑名立法。蘇張用縱横誘利。詭辨以相欺刻剝以相殺。不知所以視天下爲一家中國爲一人也。暴秦雖呑兩周。雖併六國受命日。其所以不久何也。蓋以王澤之施少及滲漉之恩有私也。自是以降二十餘姓。嗜殺者走鹿勝殘者獲之傳曰。元世祖定天下之刑審讞已定。亦不加刑皆老死於囹

明治十七年一月御届
同　二月　出版

出版人　横田兼太郎
發兌　松江堂
叢書閣
大賣捌　宮城屋

青砥左衛門尉藤綱
北條時宗　北條貞時
佐々木近江守滿信　二階堂權頭
多賀郡司　井雜光二　五十子七郎　淺羽十郎
蠶屋樂善　蠶屋善三　蠶屋善吉　風流藪澤屋白眉延長
松山興總　森村和三郎　渡島保一郎　苧環白九郎
老封　阿六（乙女）　工蟲（空蝉）
上臺馮司　上臺昌九郎（稱太八）　苧環鵜太郎　菰平　靏平
遅也　阿丑

以上姓氏略目

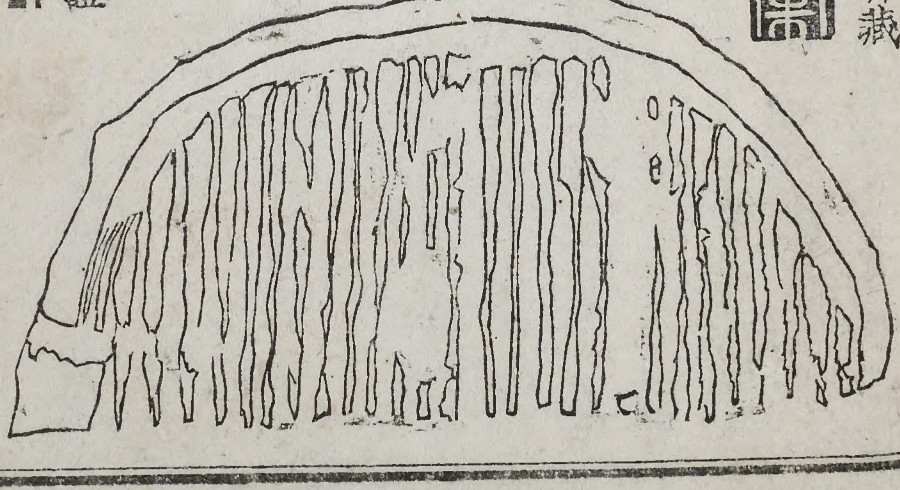
甲申歳三月望後一日夜燈下記

B 23475

ふるき櫛の圖説

櫛は和名鈔に側瑟反和名久之といへり今按するに久之とハくさしおくれ義にして雲脂を除去の用とす古は婦人これをもて髪の飾とする事なし但賤婦は結髪せざる故よ櫛を插たるとなり亂髪額よあらヽれバなり當初ハ黄揚と伊須をもて製するを最上とせり雍州府志近世或ハ玳瑁象牙をもて是を造るといへり今圖する所の櫛ハ京師の一友人影寫して送れる者なり水牛をもて製するといへば古代と稱せんとおぼつかなし然ども今様の物にハあらず於六櫛の因よ摸寫して漫に臆断をなすといふ

平安 青李菴齊藏

東都 雷水堂攷證

水牛